

水通信



2023.6.29 第192号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

目 次

※目次の事業所名等をクリックすると、その事業所等の記事に移動します。各記事の事業所名をクリックすると目次ページに戻ります。

☆ [【巻頭言】](#) 1 頁

- 洪水期に備えて

中部支社 副支社長 花田 弘幸

☆ [【中部管内水源情報】](#) 2 頁

☆ [【インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』】](#) 3 頁

☆ 《新着情報》

[中部支社](#) 6 頁

- 洪水対応演習を実施しました
- 東海農政局長から感謝状の贈呈を受けました
- 「なごや水フェスタ」に参加しました
- 中部支社で塗装講習会を開催しました

豊川用水 8 頁

- 宇連ダムで水神祭を挙行
- しんしろクリーンフェスタに参加しました

木曽川水系連絡導水路 10 頁

- 「長良川を美しくしよう運動」に参加しました
- 「揖斐川流域クリーン大作戦」に徳山ダム管理所とともに参加しました

愛知用水 11 頁

- 可搬式浄水装置設営訓練を行いました
- 水の週間啓発動画を愛知用水施設にて撮影しました

木曽川用水 13 頁

- 木曽川右岸用水土地改良区連合の監事研修で新丸山ダムを見学しました！
- 海部土地改良区が行う田植えに参加しました！
- 山之上浄水場（岐阜県東部広域水道）施設を見学させて頂きました！

岩屋ダム 15 頁

- 「アユ迷入防止対策」を行いました
- 「アメンボクラブによる水源地保全活動」が行われました

阿木川ダム 16 頁

- 第1回ダムSAKEフェスタが開催されました

徳山ダム 17 頁

- 揖斐川町の小学生が徳山湖でEボート体験！
- 2023揖斐川流域クリーン大作戦に参加しました
- 小学生が徳山ダム堤体登坂にチャレンジ！
- 非常用洪水吐ゲートの安全点検を実施しました

長良川河口堰 20 頁

- 洪水及び高潮時の対応演習を行いました
- 施設見学会を実施しました

味噌川ダム 21 頁

- 「2 days race in木祖村 2023」が開催されました
- 「なごや水フェスタ」に出展しました

三重用水 22 頁

- 加佐登調整池にて動画取材を受けました
- 自転車ロードレースの国際大会が4年ぶりに再開されました

☆【編集後記】 24 頁

- 担当課 中部支社事業部 設備課

巻頭言

○ 洪水期に備えて

中部支社 副支社長 花田 弘幸

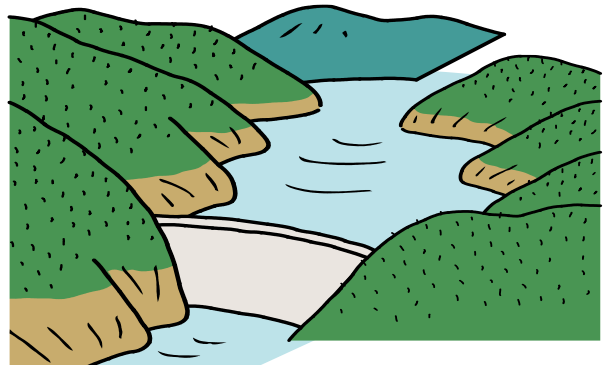
新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類感染症に位置づけられ、感染対策は事業者・個人の判断での取り組みとなりました。感染対策の基本的対処方針も廃止されることになりました。中部支社庁舎周辺には名古屋城を訪れる海外からの観光客を目にする機会も増え、通勤時には名古屋駅構内で修学旅行の出発待機する中高生の団体を毎日のように見かけるなど、街には賑わいが戻った印象を受けています。なお、厚労省から、換気、手洗い・手指消毒、マスク着用は有効な感染対策として推奨されており、引き続き、感染予防また体調に注意して過ごしていきたいと思います。

さて、例年、梅雨、台風等に対する洪水期を迎える前に、中部支社管内の各ダム管理所では防災操作時の関係者への連絡、放流警報・巡視の訓練などを兼ねた洪水対応演習を行っています。また各ダム管理所においては地元自治体等で構成する防災操作連絡会を開催し、ダム防災操作に関する説明を行い、ダム防災操作に伴う危害防止を図るよう努めています。さらに洪水期前にゲートの稼働確認を行うほか、管理所職員には自ら管理する設備の操作、点検等に関する講習会等を行い洪水に備えています。

このような準備を行っている中、今年の気象を見ますと、東海地方は、例年より8日早く5月29日に梅雨入りした後、「猛烈な」勢力で発達した台風2号とそれに伴う前線の活発化がもたらした大雨に見舞われ、愛知県、静岡県では線状降水帯も発生しました。大雨で被害を受けたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

この大雨により木曽川水系や矢作川水系においては一時、ダムの異常洪水時防災操作の可能性もあると発表されていきました。結果的に異常洪水時防災操作は回避されましたが、6月上旬にしては異例の洪水でした。中部支社管内の牧尾ダムでは「事前放流」を実施するとともに、味噌川ダムでは長野県木曽建設事務所からの要請に基づき木曽川水系ダム統合管理所の指示を受け木曽川の水位を低減させるため、通常の間操作よりダムからの放流量を減らす「特別防災操作」を行いました。

例年に比べて早い梅雨入りと6月早々に本格的なダム防災操作を行うことになり、年々、気象の変化が激しくなっているのではないかと感じています。今年も気象状況に注意を払い、洪水期に備えて万全の体制で取り組んでまいります。



中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける6月28日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曽川水系の4ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の6月降雨量は平年を上回る状況（平年比91%～167%）となっており、4ダム合計の貯水率は96%（平年比115%）と、平年を上回る貯水状況となっています。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの6月降雨量は、平年を上回る状況（平年比248%～264%）となっており、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は93%（平年比118%）と平年を上回る貯水状況となっています。

中部管内各ダムにおける6月の降雨及び利水貯水率（6月28日現在） 単位：（%）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	140	133	167	91	248	264	111	127
利水貯水率 (平年比)	90.6 (125.4)	100 (112.2)	100 (103.0)	100 (112.3)	91.3 (125.4)	98.2 (112.1)	92.6 (116.0)	100 (100)

- ・中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社HP内の「水源情報」でご覧いただけます。

中部支社HP <https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>

「水源情報コーナー」

◆リアルタイム情報 <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html>

◆中部管内の水源状況（平日更新） <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/>

◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など
https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou05_1.html

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和3年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、徳山ダム管理業務に携わる川井さんに、これまでの経験や今後の抱負などについてお話を伺いました。



■ダム湖をバックに川井さん

〈Profile〉

川井 久直 Hisanao Kawai

日本振興株式会社 名古屋支店

(徳山ダム管理所 勤務)

昭和 62 年 建設会社 入社

平成 2 年 日本振興株式会社 入社

平成 2 年 水資源開発公団 現場技術業務

平成 11 年 建設省 現場技術業務

平成 14 年 国土交通省 ダム管理補助業務

平成 18 年 水資源機構 現場技術業務

平成 22 年 国土交通省 ダム管理支援業務

平成 26 年 水資源機構 徳山ダム管理所

低水管理等現場技術業務、現在に至る

川井さんは現在、徳山ダム管理所で現場技術員として業務に従事されていますが、具体的にはどのような仕事内容ですか。

——現在、低水管理に関する業務、工事・調査設計・維持管理等に関する資料作成及び工事監督補助を3名体制で実施しています。私が主に担当している低水管理においては、日々の流入量を予測し、徳山ダム管理所職員の方や関係機関との連絡調整を行いながら、所定のプロセスにより、河川環境・保全を図るための放流量や河川の流量が不足しているときの補給量、沿川のかんがい用水の補給量等を決定する業務を行っています。

また、時には出水となり、高水管理に移行した場合においても、状況に応じて低水管理と同様なプロセスにより、流水管理を行っています。

土木関係に携わる仕事を選んだきっかけは何ですか。

——高校時代は運動部に所属していたため、体力が資本の仕事に就きたいという思いがあり、恩師から勧められた体育の教員や警察官なども考えましたが、最終的には建設現場で現場監督をしてみたいという思いや、申請するだけで測量士補になれるという単純な動機もあって、大学へ進み土木工学に関する知識を学びました。

大学卒業後は、建設会社へ就職し現場監督の仕事をしていましたが、3年経過後に現場の立会に来られていた現場技術員の方と出会ったことがきっかけとなり、違う視点での施工管理も面白そうだと思い、コンサルタント会社に転職しました。正直、自分の時間が欲しいと思い始めた時期でもありました。

土木関係の中でもダム管理業務へ進むきっかけとなった理由は何でしょうか。

——コンサルタント会社に転職してからは、資格の重要性を知り、1年目に1級と2級の土木施工管理技士の資格を取得しました。2年目も更に資格を取得したい思いから、会社に相談したところ、平成2年に設立されたダム管理技士の資格を勧められ、取得することができました。その後、いつかダム管理技士の資格を活かした仕事をしたいと思い続けていました



が、縁がなくあきらめていた矢先、平成14年にダム管理技士の資格を要件とする国土交通省直轄ダムでの管理補助業務に就くことができました。その頃は資格の保有者が少なく、平成15年には別の直轄ダムの業務受注者からご指名をいただき、顧客先のある人から「貴方は3年もダム管理の仕事をしたら、ダム管理の仕事で生きていくしかないでしょう」と励まされ、ダム管理への道を歩み始めました。

徳山ダムでは複数回業務に従事されていますが、これまでの主な経歴や、特に記憶に残ったことについて教えてください。

——建設会社では、国道の新設工事や橋梁の下部工工事に従事しました。測量して丁張りを設置し、その通りに構造物ができていく過程をみることや、工事が完成し道路が供用した時などに喜びとやりがいを感じました。

コンサルタント会社に転職してからは、長良川河口堰建設所で新設された調整課の業務に2年間、徳山ダム建設所の調査設計課の業務に4年間従事しました。徳山ダムでは本体着工に先駆け、国に承認された工事計画図書の作成に貢献することができました。その後は直轄ダムで建設工事の現場技術業務や管理補助業務等に従事し、初めて洪水調節を経験しました。

10年程経過後に復帰した徳山ダムで4年間、試験湛水から管理移行までの業務に携わり、横山ダムなど直轄ダムの管理支援業務を経験した後、平成26年から現在に至っています。

今のやりがいとは聞かれたら、貯水容量日本一を誇る大徳山ダムで操作の仕事に携われること自体が誇りに思いますし、ダム管理の仕事は職場を離れても、スマホなどでデータの監視ができるため、放流量の設定が適正だったかの確認や流況の変化に備えたりして、ダム操作に関与できることにやりがいを感じています。

月並みですが川井さんにとってストレス解消とは。

——仕事のみならず私生活でもストレスが溜まらないといえは嘘になりますが、今の自身の環境においては、健康維持にも留意しつつ体を動かすことにより、ストレス解消に努めています。コンサルタント会社に転職したばかりの長良川河口堰建設所や徳山ダム建設所では、当時の寛大な職員の方や同業者の方にも恵まれ、野球や未経験で始めたテニス、ゴルフなどをして、楽しく過ごすことができた頃の古き良き時代を今では懐かしく思います。

今後について教えて下さい。

——近年、豪雨や台風といった水災害は激甚化・頻発化してきているため、ダム管理者および利水管理者と治水協定を締結し、大雨の前にダムの利水容量から事前放流を行う等の治水対策が進められています。今後もこのような情勢とダムの重要性を再認識し、ダムの操作を通じて、地域社会へ貢献できるよう業務に取り組んでいきたいと思っています。



(あとがき)

梅雨に入り洪水期の業務多忙な中、インタビューにお応えいただきありがとうございました。川井さんの仕事に対する考え方に共感することが多々ありました。運動などで体を動かすことでストレスを発散し、自分の業務をスムーズに行っている姿は頼もしく思います。

今後、地域、関係機関と一体となりダム操作等の管理業務ができることを期待しています。

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを今後も特集として掲載していきます。インタビューに応じていただける方を引き続き募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。



ブレイクタイム ことわざ

【水は方円の器に随う】(みずはほうえんのうつわにしたがう)

・水は容器の形によって、四角にも丸くもなる。人は、交友関係や環境によって、よくも悪くもなるというたとえ

《新着情報》

中部支社

○ 洪水対応演習を実施しました

5月16日（火）、17日（水）の2日間、中部支社管内8事業（10施設）において、洪水対応演習を実施しました。

この演習は、本社、中部支社、各事業所間における情報伝達方法等の確認及び作業の習熟を図ることを目的として、毎年洪水期の前に実施しています。

演習内容は、防災体制発令等の情報伝達、異常洪水時・特別防災操作に係るWEB会議システムを利用した承認・報告等手続き、事前放流操作の関係機関との情報伝達、リアルタイム広報等の資料作成、木曽川洪水予報伝達（中部地方整備局と連携）を行いました。また、これに加え各事業所においても個別の訓練も併せて行っております。

今後とも、突発的な水害に対して職員が的確に判断し素早く行動ができるよう演習を行ってまいります。



■洪水対応演習の実施状況

○ 東海農政局長から感謝状の贈呈を受けました

この度、明治用水の漏水事故の支援について東海農政局長から感謝状の贈呈を受けました。

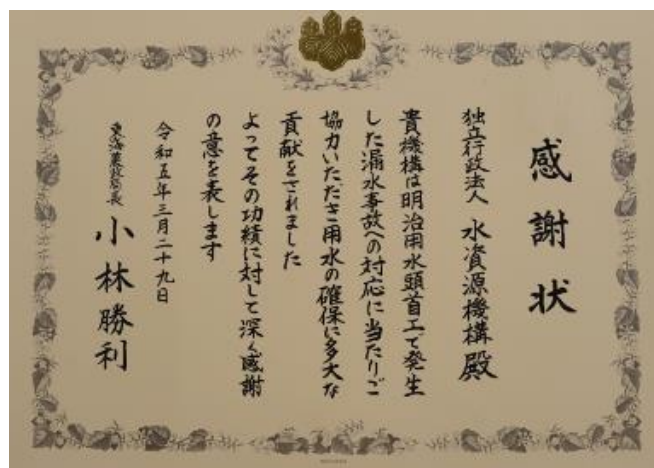
昨年5月17日（火）に明治用水頭首工で発生した大規模な漏水事故について、東海農政局からの支援要請により水資源機構が行ったポンプ車等の機材及び人的支援（延べ238人を派遣）による貢献について、小林東海農政局長から感謝状が贈呈されました。

これからも中部支社管内一丸となって施設等の維持管理はもとより、地域、関係機関との連携をとり、防災に努めてまいります。

詳しくはこちら [Microsoft PowerPoint・明治用水頭首工への支援 HP 用 \(water.go.jp\)](#)



■小林東海農政局長（左）と桑原中部支社長



■感謝状

○ 「なごや水フェスタ」に参加しました

6月4日（日）、名古屋市上下水道局が主催する「なごや水フェスタ」がコロナ禍の中、昨年度まではオンラインや縮小して開催されていましたが、4年ぶりに通常開催となり、昨年に引き続き水資源機構のブースを設け参加しました。

このイベントは、名古屋市上下水道局が水道週間（6月1日～7日）の間に毎年開催してきたイベントで、会場の鍋屋上野浄水場の施設見学、各自治体等が設けたブースによる展示等が行われました。

水資源機構では、名古屋市に水道用水を供給している水源の岩屋ダム、徳山ダム、味噌川ダムのブースを設け、浄水場までの水の流れ等をパネルなどで説明しました。また、アンケートにご協力いただいた来場者には、各ダムの特徴を生かしたグッズ（流木で作成したコースター、缶バッジ等）の配布や、ダムに流れ着いた様々な形の流木の無料配布をしました。なお、各ダムでも関連記事を掲載しておりますのでご覧ください。

当日は快晴で来場者もかなり多く、大賑わいでした。このイベントを主催された名古屋上下水道局及び各展示ブースのスタッフの皆様におかれましては、5類に分類された新型コロナウイルスとはいえ、開催中対応に気苦労されたと思います。本当にお疲れさまでした。

○ 中部支社で塗装講習会を開催しました

6月14日（水）、中部支社において、関西ペイント販売中部販売部 防食グループ グループリーダーの土居様を講師にお迎えし塗装講習会を開催しました。中部管内の機械設備担当の若手職員19名（うちWEB9名）が参加して実施し、他にも水資源機構の全事務所へWEB配信しました。

この講習会は、塗装は機械設備工事において必須であるため若手職員を対象とした塗装の基礎知識、塗料選定方法、新技術等を習得するため開催しました。

新技術は設備の延命、コスト縮減に直接つながることから、発注者として学び採用することで、さらに設備延命を図ることができること、実際に塗装を体験することで塗装の難しさや施工管理の注意点等を学ぶことができることも目的の1つとしています。

引き続きこのような講習会を実施して行き、技術力の向上に努めてまいります。



■ 塗装講習の様子



■ 実技講習の様子



■ 実際に塗装を行う職員

豊川用水総合事業部

○ 宇連ダムで水神祭を挙行政

宇連ダム（貯水池の通称「鳳来湖」）には、源となる豊川用水が末永く受益地に水の恵みをもたらすことを願い、守神として昭和34年5月21日に「貴船神社」が安置され、同年5月23、24日に第1回水神祭が挙行政されました。

今年も5月22日（月）に水神祭が挙行政され、安藤事業部長外8名が参列しました。潤い豊かな1年になることを願いました。



■宇連ダムの貴船神社



■水神祭（安藤事業部長の玉串奉奠）



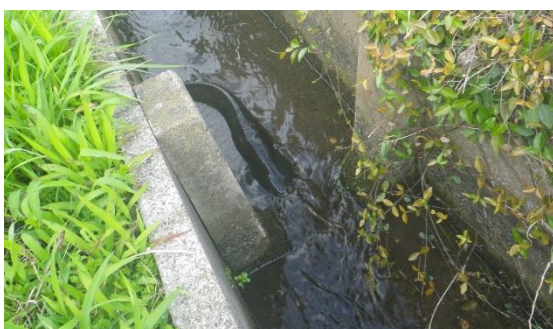
■貴船神社の幟旗

○ しんしろクリーンフェスタに参加しました

新城市が実施している清掃活動の一環「しんしろクリーンフェスタ」を、5月23日（火）に新城支所で開催しました。この清掃活動には牟呂用土地改良区、事業部、水源管理所、新城支所の総勢27名が参加し、新城支所周辺を3ルートに分けて実施しました。

回収したゴミは、可燃物10袋、不燃物9袋の約19.7kgもあり、環境保全意識の向上を図るとともに、美しく住みよいまちづくりの推進に協力することができました。

活動中には、ゴミだけではなく、田んぼの柵渠で動けなくなっているナマズを発見し、豊川に放流する救出劇もありました。次回は秋に開催予定です。



■柵渠内で動けないナマズ



■回収したゴミと記念写真

木曽川水系連絡導水路建設所

○ 「長良川を美しくしよう運動」に参加しました

4月16日（日）、木曽川水系連絡導水路建設所は岐阜新聞社、岐阜放送主催の「第1回長良川を美しくしよう運動」に参加しました。

1973年（昭和48年）から続いているこの清掃活動は、春、夏、秋の年3回行われる予定で、今回の第1回は長良川鵜飼開幕前に実施されます。毎回5～7千人の市民ボランティアや企業・団体関係者が参加する大規模な活動です。

当建設所からは職員2名が参加し、朝7時から1時間ほどゴミ拾いを行いました。

当日は、前日の雨で足下が悪くなっていましたが、多くの方々が早朝から参加されていて、熱心に清掃活動を行っていました。岐阜県の共有財産である長良川を、県民の皆さまがとても大切にしていることを知るとともに、身が引き締まる思いです。



■長良川でゴミ収集の様子

○ 「揖斐川流域クリーン大作戦」に徳山ダム管理所とともに参加しました

5月27日（土）、NPO主催の「揖斐川流域クリーン大作戦」に参加しました。

毎年ゴミゼロの日（5月30日）に近い5月最終土曜日に実施されるこの清掃活動は、《きれいな水を次の世代へ》をスローガンに、企業・学校・地域組合・行政等の様々な団体が参加されています。

当建設所からは職員2名が参加し、朝8時半から1時間ほどゴミ拾いをしました。

会場は知らない人同士でも自然に声をかけあうような終始なごやかな雰囲気、地域の皆さまの暖かさを感じることができました。



■揖斐川でゴミ収集の様子

愛知用水総合管理所

○ 可搬式浄水装置設営訓練を行いました

水資源機構の経営理念である「安全で良質な水を安定して安くお届けする」は、異常渇水時、地震・水害等の災害時においても「安全で良質な水」を利水者の皆様にお届けする責務を有しています。その責務を果たす一手段として、海水などの原水を「水質基準に関する省令」で規定する基準を満足する水準に浄化する可搬式浄水装置を水資源機構では2基保有しています。1基は埼玉県にある利根導水総合事業所、もう1基は愛知用水総合管理所に配備されています。

現在までに、水源が枯渇する恐れがあった離島において海水を浄水化して給水した例や、地震等によって配水系統が損傷し濁水が混入した地域の水を浄化し、水不足による被害軽減に貢献してきました。

災害支援等において必要な可搬式浄水装置を確実に設営・操作することができる人材の育成を目的として、毎年度、可搬式浄水装置設営訓練を実施しており、4月26日（水）から27日（木）にかけて愛知用水総合管理所において実施しました。

今後とも、迅速かつ有効な水供給を行うべく、職員訓練による操作技術の維持・向上を図り、社会的責任を果たしていくことができるよう努めて参ります。



■ 可搬式浄水装置実地訓練の様子

○ 水の週間啓発動画を愛知用水施設にて撮影しました

「水の週間実行委員会」では水の週間の啓発のため水に携わる様々な方の話を「ミス日本水の天使」のインタビューを通じて紹介する動画を制作しています。今年は、「水の源をたどる旅」と題して、愛知用水とその流域全体に焦点を当てた動画を制作し、「水の日」・「水の週間」に合わせて公開される予定です。



■2023 ミス日本「水の天使」竹田 聖彩さん

6月17日（土）、18日（日）に撮影が行われ、愛知用水の水を使う農家様へのインタビューに始まり、愛知池、兼山取水口、牧尾ダムでは職員による施設紹介、水源地の王滝村の紹介といった内容となっています。現在制作中ですが一般公開される予定となっていますので、水の週間が近くなりましたら、「水の週間実行委員会」で検索していただき、ぜひ動画をご覧ください。



■愛知池での撮影の様子



■阿久比町の「つづき農場」で撮影の様子



ブレイクタイム 俳句

【 七夕の 逢わぬ心や 雨中天 】松尾芭蕉

・今日は七夕。 天の川を渡って二人が会えれば有頂天だが、今夜はあいにくの雨で、天の川の水かさが増して会えないだろう。 その気持ちはまるで雨中天だ。 「有頂天」の造語の「雨中天」をかけて表現しています

木曽川用水総合管理所

○ 木曽川右岸用水土地改良区連合の監事研修で新丸山ダムを見学しました！

5月15日（月）、木曽川右岸用水土地改良区連合監事研修の現地見学として、木曽川上流部の岐阜県加茂郡八百津町において国土交通省中部地方整備局の事業が進められている『新丸山ダム』の建設現場を見学しました。



当日は天候に恵まれ、新丸山ダム工事事務所において事業概要の説明をいただくと共に、その後、新丸山ダムの工事現場を見学しました。新丸山ダムは完成から60年以上が経過した丸山ダムを嵩上げし、洪水調節機能の強化等を目的として昭和61年から事業に着手し、令和3年からダム本体工事に着手しています。

木曽川右岸地区の受益地域周辺で進められる大規模なダム事業ですが、普段は見学する機会はありませんので、事業の重要性等について改めて認識を深めることができ、当日は貴重な見学となりました。



■丸山ダム下流から上流を望む



■丸山ダム下流の眺望

○ 海部土地改良区が行う田植えに参加しました！

5月24日（水）、弥富市にある海部土地改良区会館脇にある水田で、海部土地改良区の呼びかけで愛知県海部農林水産事務所と濃尾第二施設改築事業推進室の若手職員が参加して、地域の豊作を祈念しつつ田植えを行いました。

当日は快晴で風も涼しく、絶好の田植え日和で、10人ほどが1列となり、ロープに付けてある目印に数株の苗を植えていきました。最初は泥の中の慣れない足下や経験の無い苗の植え付けで手間取っていましたが、半分ほどまできると慣れてきたこともあり徐々にスピードアップし、お約束の泥に足を取られて泥んこになることもなく、1時間ほどで田植えを終えることができました！



■田植えの苗

この植えた苗が成長して、秋に美味しいお米になるのが今から楽しみであるとともに、木曽川用水が地域の営農に重要であることが再認識できました。



■愛知県職員も協力しています



■代掻きも協力しています

○ 山之上浄水場（岐阜県東部広域水道）施設を見学させていただきました！

5月24日（水）、利水者との情報共有・連携の一環として、木曽川右岸地区の利水者施設である都市用水施設の『山之上浄水場』（岐阜県東部広域水道）において、浄水場の方々との日頃の業務を通じた意見交換、浄水場内の施設を見学させていただきました。

浄水場との情報共有・連携に関しては、日頃の配水運営等に係る連絡調整のほか、近年頻発している飛騨川本川の高濁度発生時への対応に関して、浄水場との情報共有・連携強化が求められている状況であり、当日の意見交換はもとより、施設の見学を通じて浄水場の管理運営について理解を深める良い機会となりました。

また、当日は、美濃加茂管理所のほか、総合管理所から若手職員が多数参加し、浄水場（場長）からのきめ細やかな説明をいただき、浄水場の管理運営等について、業務に役立つ大変有意義な情報を得ることが出来たとの感想が多くの参加者から出ました。

今後も利水者との情報共有・連携強化の一環として、このような意見交換、施設見学の機会を継続していきたいと考えています。



■浄水場内 施設全景

山之上浄水場の場長をはじめ、ご担当の方々におかれましては、当日の対応等、この場にて御礼を申し上げます。有り難うございました。



■ 浄水場との意見交換

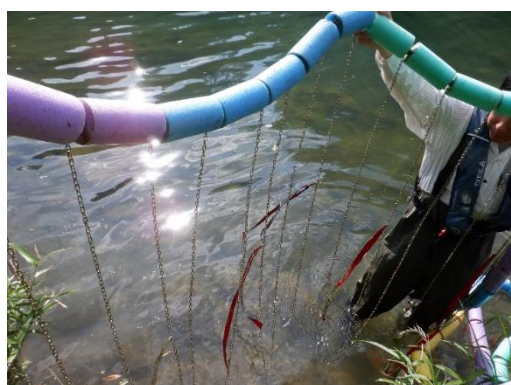


■ 浄水場見学の様子

岩屋ダム管理所

○ 「アユ迷入防止対策」を行いました

岩屋ダムでは4月20日（木）に、馬瀬川下流漁業協同組合の方々と協働で「アユ迷入防止対策」を実施しました。迷入防止対策とは、リボンをつけたロープを河川横断するように張ることで、アユの生息に適さない場所等への侵入を防ぐためのものです。今年度はリボンと併せてチェーンをつけることで、音により迷入防止の効果がより発揮されるような工夫を施しました。



■ アユ迷入防止ロープ



■ ロープ設置後の様子

○ 「アメンボクラブによる水源地保全活動」が行われました

5月24日（水）、名古屋市上下水道局のサポーター組織であるアメンボクラブの方々による水源地保全活動が、岩屋ダム貯水池湖岸周辺にて行われました。今回は、水源地を保全するためアセビを植樹していただいたほか、湖岸周辺の清掃活動も行っていました。

また、6月4日（日）に名古屋市で開催された「なごや水フェスタ」において、この取り組みを、紹介させていただくことで、名古屋市近郊にお住まいの来場者様にお伝えすることができました。

水源地保全活動にご参加いただいたアメンボクラブの皆様、並びに水源地域のために企画・運営をしていただきました名古屋市上下水道局の皆様へ心より感謝申し上げます。



■植樹活動の様子



■なごや水フェスタの様子

阿木川ダム管理所

○ 第1回ダムSAKEフェスタが開催されました

ゴールデンウィークの5月3日（水）と4日（木）に、ダム酒造酒サミット実行委員会が主催し、名古屋国税局と恵那市が後援の「ダムSAKEフェスタ」が、名古屋市の久屋大通公園内で開催されました。

このダムSAKEとは、ダム堤体内を天然の貯蔵庫とみたと、熟成させた日本酒のことで、このイベントでは国土交通省の丸山ダム・矢作ダム・小里川ダムと、水資源機構阿木川ダムの計4ダムに貯蔵している、おのおのの地域にある合計13の蔵元の日本酒をPRするとともに、ダム統一テントブースにおいて、パネルとパンフレットによるダムの役割及び周辺地域の魅力の情報発信がなされました。

開催日は両日とも快晴となり、会場には多くの来場者が訪れ、各蔵元の日本酒の特徴を聞きながら試飲を楽しんでいました。



■阿木川ダム試飲ブース



■阿木川ダムで貯蔵している日本酒

阿木川ダムにおきましても、昨年8月から地元蔵元と協働で阿木川ダム地下アクセストンネル内で熟成させた日本酒を蔵元が出展し、近隣地域の発展と活性化につなげる取り組みと併せて阿木川ダムの役割について情報発信を行いました。

徳山ダム管理所

○ 揖斐川町の小学生が徳山湖でEボート体験！

5月18日（木）、地元の揖斐川町の小学生11名が徳山ダムのダム湖（徳山湖）でEボート（11人乗り大型カヌー）体験を行いました。

当日は風が穏やかで、ボート体験にとっても良い条件でした。ライフジャケットをしっかりと着用し、ボート上での注意事項やパドルの操作方法の説明を熱心に聞く姿が頼もしく、湖面に出たからは、呼吸を合わせてパドルを漕いで、ボートはグングン進んでいきました。静かな谷では、パドルを止めて、ボート上でダム湖周辺の植物等を間近に自然学習も行いました。

ボート体験の後児童たちは、ダム下流にある『生命の水と森の活動センター』で丸太切り体験や自然学習を行い、『ふじはし星の家』にて宿泊学習を行う予定で、まずは徳山ダムで思い出に残る体験学習の良いスタートがきれたのではないのでしょうか。



■力を合わせてパドルを漕ぐ児童たち

○ 2023揖斐川流域クリーン大作戦に参加しました

5月27日（土）、『きれいな水を次の世代へ』というスローガンのもと、揖斐川流域を17のブロックに分けて行われた「2023揖斐川流域クリーン大作戦」に参加しました。

徳山ダム管理所からも職員 11 人が参加し、藤橋会場「水と森の学習館」から出発して、周辺道路や揖斐川沿いの清掃活動を行いました。

徳山ダムはこれからも地域の方々と協力しながら、良好な自然環境の保全を行い、生活を守っていきます。



■清掃作業の様子



■回収後の分別作業の様子

○ 小学生が徳山ダム堤体登坂にチャレンジ！

6月1日（木）徳山ダムの地元揖斐川町の小学生20名が徳山ダム堤体登坂を体験しました。

徳山ダムに登って、その大きさを体感することができるプログラムで、普段は立ち入ることのできないダム直下で開会式を行い、ダム堤頂を目指して登坂しました。

途中のポイントで職員が待機しており児童たちの安全を見守りながら、頑張る児童に声をかけて応援しました。ゴールのダム堤頂に着いた児童たちから、早くゴールに向かうお友達を応援する声が微笑ましかったです。

閉会式では、「登れて良かった！」「疲れたけど楽しかった！」など沢山の感想を心地よい疲労感と達成感でいっぱいの表情で聞かせてくれました。地元の徳山ダムで体験した思い出を大切にしたいなと思います。



■登坂開始

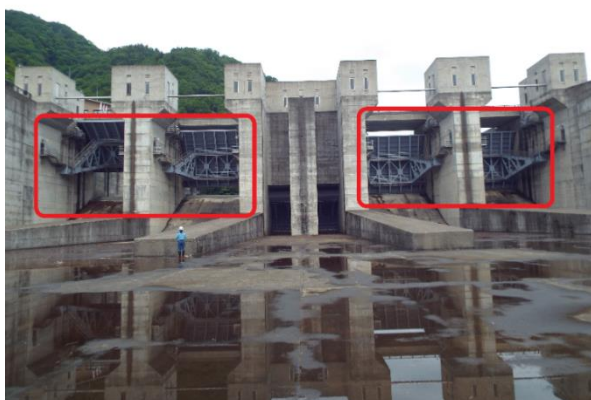


■岩だらけの堤体を登る児童たち

○ 非常用洪水吐ゲートの安全点検を実施しました

徳山ダムでは、洪水期（6月16日～10月15日）を迎える準備として6月5日（月）、6日（火）に非常用洪水吐ゲートの安全点検を行いました。

洪水吐き中央に2門ある常用洪水吐きの放流量（最大 $211\text{ m}^3/\text{秒} \times 2\text{ 門} = 422\text{ m}^3/\text{秒}$ ）を上回る量を放流しなければならないときに開ける施設なので、普段はこの洪水吐きを開けて放流することはありません。非常事態に備えるため、洪水吐きゲート設備を始めとした、各設備が適切に作動するように日頃から点検を行い、地域のみなさまの生命と財産を守るためにこれからも徳山ダムを適切に管理して行きます。



■赤枠が非常用洪水吐きゲート



■ゲート点検の様子

長良川河口堰管理所

○ 洪水及び高潮時の対応演習を行いました

5月16日（火）、17日（水）の2日間にわたり、梅雨や台風に備え、洪水及び高潮時の対応演習を行いました。

災害発生に備え必要なマニュアル、堰の操作、関係機関との情報共有、堰設備の点検や想定される障害と対応方法について、職員全員で訓練を行いました。

長良川河口堰管理所では、いつ発生するかわからない災害に対して、関係機関及び中部支社とも連携し、今後も定期的に訓練を継続していきます。



■洪水対応演習の様子



■堰設備点検の様子

○ 施設見学会を実施しました

5月21日（日）に小学4・5・6年生及びその保護者を対象に施設見学会を開催しました。

はじめに河口堰の概要説明を行い、普段は関係者しか入れないゲート巻き上げ機室を見学しました。その後に魚道観察室を見学し、見学会を終了しました。

見学者のみなさんからは、たくさんの質問をいただきました。特にゲート巻き上げ機室を熱心に見学され、巻き上げ機の大きさやワイヤーの太さ、河口堰を間近で見た迫力に感動されていました。



■河口堰を見学する児童たち

味噌川ダム管理所

○ 「2 days race in木祖村 2023」が開催されました

5月20（土）～21日（日）にかけて、2 days race in木祖村実行委員会が主催する国内アマチュアロードステージレースの最高峰であり、全日本選手権予選も兼ねる信州伝統の「2 days race in木祖村 2023」が6年ぶりに開催されました。

レースは、会場を味噌川ダム（奥木曾湖）の周回道路をコースとし、第1から第3ステージを県内外から30チーム（1チーム5名）が参加し総合タイムを争うレースでした。

周回道路は、道幅は決して広くはありませんが、それにもかかわらず100人以上もの出場選手たちがものすごいスピードで疾走していく光景をみて、撮影していた当管理所職員もただただ圧倒されるばかりでした。



■ダム周回道路のコースを疾走する選手たち

○ 「なごや水フェスタ」に出展しました

6月4日（日）、名古屋市上下水道局主催の「なごや水フェスタ」に今年も中部支社をはじめ味噌川ダム・岩屋ダム・徳山ダム合同で出展し、ダムの役割をパネル等で説明しました。

当日は30℃近くの夏日にもかかわらず、大勢の市民の方々が来場され、当機構のブースにお立ち寄りくださり、味噌川ダムを含めた3ダムについて深く知っていただきました。また、アンケートにお答えいただいた方に配布する味噌川ダム管理所で製作した白樺コースターや流木、缶バッジ等についても大好評でした。



■水機構のブースに興味を示す来場者



■無料配布の流木

三重用水管理所

○ 加佐登調整池にて動画取材を受けました

5月12日（金）加佐登調整池にて、地元小学校の授業資料として、インタビュー形式での概要説明の動画撮影を行いました。

取材をされた先生は、毎日の通勤途中、加佐登調整池が何をする施設なのか日々疑問に感じていたが、「今回の概要説明の撮影で施設のことがよくわかりました。」と納得して帰られました。

この動画は、オンライン授業で使用するそうで、地元小学校の生徒だけでなく、家族の方々も閲覧することが可能とのこと。どんな作品になったのか非常に楽しみです。



■カメラの前でインタビュー開始



■資料を用いて説明する

○ 自転車ロードレースの国際大会が4年ぶりに再開されました

5月23日（火）三重県いなべ市内において、ロードレースの国際大会「ツアー・オブ・ジャパンいなべステージ」が開催されました。2020年以降は、開催中止や縮小開催が続き、いなべステージでの開催は4年ぶりとなりました。

このいなべステージで選手たちは勾配のある127kmもの距離を走行し、白熱したレースに会場は大変盛り上がりしました。

三重用水管理所では、中里ダムの駐車場を開放するなど大会に協力しました。当日は快晴の中、コースの沿道には観客も多く、選手たちも気持ちよく快走できたのではないのでしょうか。



■観客のすぐ横を疾走する選手たち



■先頭でフィニッシュした選手と生放送中の大型テレビ



ブレイクタイム 四字熟語

【 闊達自在（かったつじざい） 】

・心が広く小言にこだわらないさま。思いのままのびのびしているさま。

編集後記

【担当課：中部支社事業部 設備課】

本格的な梅雨となり、先の大雨で、一部線状降水帯が発生し被害に遭われた地域の方々におかれましてはお見舞い申し上げます。

さて、私この4月に新規採用で中部支社勤務となり早2か月がすぎました。今回「水通信」の編集後記の執筆をするように言われ、多くの方に読んでいただく初めての文章なので面白いものにしようとあれこれ考えました。ですが、根っからのまじめな性格のため、なかなか面白いネタが思いつきません。そこで、先輩からのアドバイスを受けて、名古屋に来て驚いたことを紹介することにします。

最初に驚いたのは、名古屋駅周辺のビルすべてが大きいということです。私の地元の新潟では、田んぼばかり見ていたので名古屋の都会さに圧倒されました。ちなみに、新潟県の県庁の高さはおよそ90メートルで、愛知県庁の高さの倍あるため(歴史的建造物は無視して)、県庁の高さだけみれば新潟の方が都会だと自負しています。

ふたつ目は、自動車の運転のパワフルさです。赴任前に、「名古屋走り」なるものがあるとは聞いてはいましたが、実際に体験すると想像以上のものでした。当然のことながら、安全な運転ですが周りの流れに乗る車は、ジェットコースターに乗っているような感覚で、移動時間中に飽きることはありません。田舎育ちの自分は、名古屋で刺激的な生活で送っています。

中部支社の事務所は、金シャチで有名な名古屋城の目の前にありますが、天守閣を外から眺めるだけで、実際に登ったことはなく、名古屋にいるうちにと考えていましたが、現在閉館中のように、まだ休暇中に市内の名所等の観光もしていません。名古屋に限らず、東海地方のおすすめの観光地などがあれば教えていただきますよう、この場をお借りしてお願いします。





今月の水通信はいかがでしたでしょうか。

「水通信」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。

[mailto: chubu_water@water.go.jp](mailto:chubu_water@water.go.jp)

『第193号は、8月下旬に発行する予定です。』
バックナンバーをご覧になりたい方はこちら

<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/mizutsuushin/mizutsuushin.html>



☆中部管内事業所のホームページアドレスは、以下のとおりです

中部支社：	https://www.water.go.jp/chubu/chubu/
豊川用水総合事業部：	https://www.water.go.jp/chubu/toyokawa/
木曽川水系連絡導水路建設所：	https://www.water.go.jp/chubu/kisodo/
愛知用水総合管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/aityosui/
木曽川用水総合管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/kisogawa/
岩屋ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/iwaya/
阿木川ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/agigawa/
徳山ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/tokuyama/
長良川河口堰管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/nagara/
味噌川ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/misogawa/
三重用水管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/mieyosui/

発行者：水資源機構中部支社